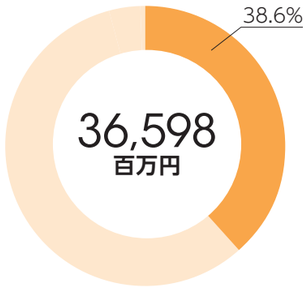
## インテリア事業

### 売上高および構成比

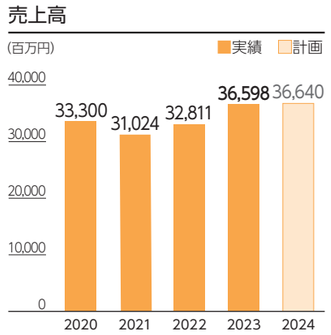


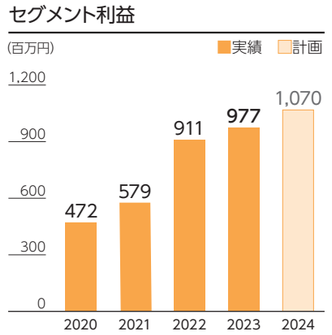

### 2023年5月期の事業概況

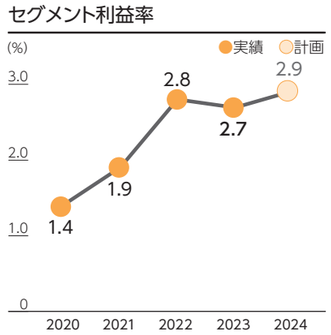
家庭用カーペットはコロナ禍での需要反動影響を受けましたが、業務用カーペットは大型物件受注で伸長し、スペース デザイン ビジネスはトータル提案の採用により売上に寄与しました。また、壁装関連も、価格改定効果などから堅調に推移しました。

### 業績推移

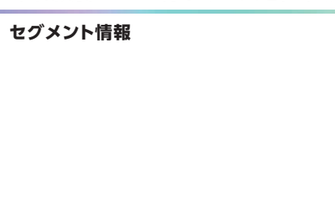
各年5月期



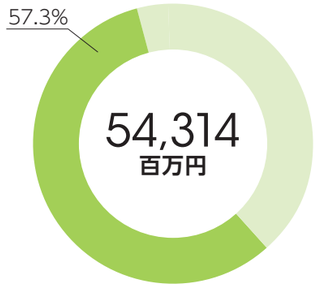




## 自動車・車両内装事業



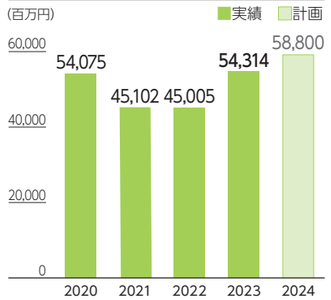
### 売上高および構成比

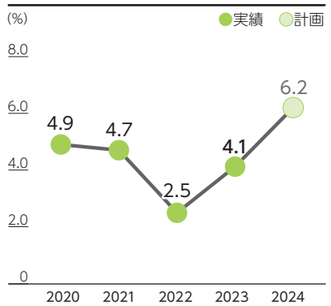



### 2023年5月期の事業概況

自動車生産台数の回復と為替も寄与し自動車関連売上は増加しました。車両関連も鉄道リニューアル工事やバス向け内装材の需要が回復へと転じました。利益面は、適正価格での取引が少しずつ浸透し、北米子会社の事業構造改革も奏功しました。

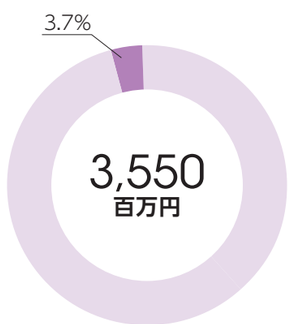
### 業績推移






## 機能資材事業

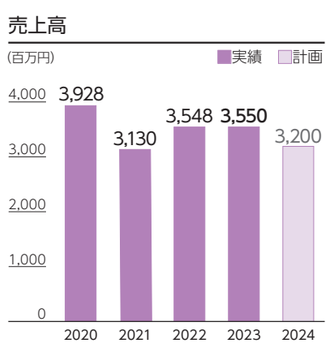
### 売上高および構成比

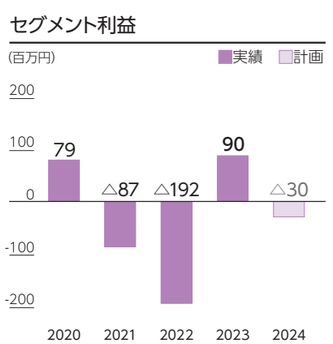


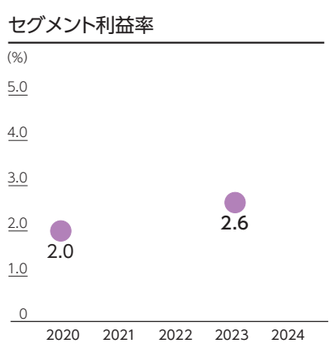

### 2023年5月期の事業概況

繊維系暖房商材は、新規受注数は減少したものの、原材料価格高騰や輸入コストアップによる価格改定効果が奏功し、浴室床材も好調に推移しました。また、海外工場の再編が前期で完了したことも寄与しました。

### 業績推移




※ 2024年5月期は2023年7月14日開示の連結業績予想数値。

# インテリア事業

## 事業内容

業務用内装材卸売(国内・海外)、内装(カーテン・カーペット・壁紙・緞帳・緞通など)工事、家庭用インテリア製品卸売、EC事業、店舗設計・施工(スペース デザイン ビジネス)、カーテンなどのオプション販売、美術工芸品製造・販売。

## 主要製品

タイルカーペット

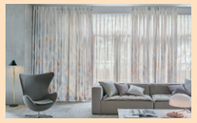
AVANCERA FLOOR

緞帳

緞通

美術工芸品
コインパース・カードホルダー

ラグ・マット


カーテン

壁紙

襖紙

## SWOT分析

| 強み | 弱み |
|---|---|
| • 環境に関する長年の取り組みで培った環境商品力<br>• メーカーでありながら卸・工事力も併せ持つ販売力<br>• 空間全体の設計デザインから最終納品までできる体制<br>• 長年培われた技術に基づいた伝統工芸品の製造・開発力<br>• 他事業部門との連携による製品開発力と営業力 | • 広報活動不足によるブランド認知度の低さ<br>• 主力製品の一つであるロールカーペットの需要減少<br>• 地方ショールームの立地・アクセスの不便さ<br>• 壁紙とインテリア製品の管理システム・拠点が異なることによる物流の非効率さ |
| **機会** | **脅威** |
| • グリーン購入法のタイルカーペットの調達判断基準に「$CO_2$排出量の開示」が追加されたことによる需要増加<br>• ライフスタイルの変化による内装材への関心の高まり<br>• 海外渡航解禁に伴う海外市場の需要増加<br>• 高級志向による日本伝統美術工芸織物品の評価向上 | • 住宅着工件数の減少などによるインテリア市場の縮小<br>• 原油などの原材料やエネルギーコスト・物流費の高騰<br>• サプライチェーン減少による原材料の供給不安<br>• 高齢化や需要減による技能士不足<br>• 運送ドライバー不足による運送費高騰 |

## 事業に関わる会社

住江織物(株)、(株)スミノエ、ルノン(株)、住江物流(株)、丹後テクスタイル(株)、(株)スミノエワークス、(株)ソーイング兵庫、(株)シーピーオー、(株)プレテリアテキスタイル、住江織物(株)京都美術工芸所、住江テクノ(株)

## SGW SUMINOE GROUP WAY 2022〜2024〜2027 戦略・施策と2023年5月期の進捗評価

| 戦略・施策 | 進捗 | 戦略・施策 | 進捗 |
|---|---|---|---|
| 環境対応型製品の拡充・拡販 | ○ | 在庫稼働率の圧縮 | ○ |
| 抗ウイルス壁紙の商品化および発売 | ○ | 直営EC事業の強化 | ○ |
| ブランドイメージの発信強化と浸透 | ○ | デリバリーの簡素化 | × |
| ハウジング向け商品の開発 | △ | ―――― | ― |

## 担当役員による振り返りと今後の展望

### 景気の回復傾向を受けて増収増益を達成。スペース デザイン ビジネスを強化します。

取締役
インテリア事業部門長
村瀬 典久

### 2023年5月期の振り返り(成果と課題)

2023年5月期は、首都圏を中心とした大型再開発物件の受注、インバウンド需要の回復を受けて宿泊施設などの改修工事が再開したことなどから、増収増益を達成しました。増益については、2022年5月期に原材料価格の高騰を受け、製品の価格改定を行った壁装関連のルノン(株)の業績が堅調に推移したことなどが寄与しています。

スペース デザイン ビジネスにおいては、店舗向け設計施工会社の(株)シーピーオー、インテリア販売会社の(株)プレテリアテキスタイルが既存事業と相乗効果を発揮しました。大型店舗で内装材や造作家具などのトータル提案が採用され、市場浸透への第一歩を踏み出しました。

製品関連では、環境意識のさらなる高まりを受け、水平循環型リサイクルタイルカーペット「ECOS®(エコス)」の販売数量・市場認知度が大きくアップしました。また、一般家庭向けに犬猫などのペット対応のラグ・マットを発売するなど、異業種への展開を積極的に行いました。

### 今後の展望(SGW2024達成に向けて)

まずは2023年5月期に引き続き、「ECOS®(エコス)」を中心とした環境対応型製品や、独自の各種高機能製品の拡販に努めます。これらを交えてスペース デザイン ビジネスの強化を図り、人と社会にやさしく、より快適で安心・安全な空間をワンストップで提供していきます。

収益性向上に向けては、今まで構想段階だったハイグレード製品の開発・発売が重要だと考えています。著名ホテルなどへの納入実績を持つ丹後テクスタイル(株)がつくるハンドメイドラグのような、より高級感を持つ一般家庭用カーペットを中心に、他社と差別化した製品を提案することで、収益性を高めていきます。また、未だ高騰し続ける原材料価格は、メーカーとして吸収できる限界を超えています。各製品を適正価格で販売することで、品質の維持・適正在庫の確保を行い、利益を確保していきます。

コロナ禍からの制限緩和に伴い、経済は大きく動き始めています。インテリア事業部門もこの波に乗り遅れることなく、国内外へ積極果敢にトライしていく覚悟です。そして、2023年に140周年を迎えたSUMINOE GROUPのなかで、インテリア事業が人々の生活を支える一翼を担えるよう、事業運営に邁進してまいります。

### 進捗 広報活動を通じた(株)スミノエの認知度強化 ― ブランドイメージの発信強化と浸透

インテリア事業部門の基幹会社である(株)スミノエでは、広報活動を強化しています。

2023年5月期は、(株)スミノエおよび「ECOS®(エコス)」のブランドイメージ・認知度向上のため、建築専門誌にインタビュー形式のタイアップ広告を連載しました。

そのほか、webを通じた取り組みも積極的に実施しています。その一例として、いくつかの建築資材データベースサイトを活用し、現在も継続的に情報を発信しています。また、自社の公式webサイトでは、すべてのコンテンツをユーザー目線で見直し、リニューアルを予定しています。それと並行して、SNS配信を工夫しながら継続していくことで、BtoBのお取引先様だけではなく、BtoCのエンドユーザーにも(株)スミノエの各種ブランド製品を幅広く認知していただけるよう、取り組んでいます。

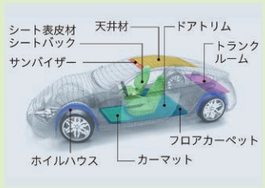
(株)スミノエ
webサイト

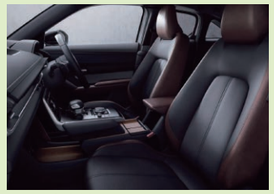
# 自動車・車両内装事業（自動車内装事業）

## 事業内容

自動車内装材（天井材、シート表皮材、フロアカーペット、トランクルーム、カーマット、ほか内装材全般）、自動車外装材（ホイルハウス、エンジンカバーなどの繊維製品）の開発・製造・販売。全日系自動車メーカーに納入。

## 主要製品





シート表皮材

フロアカーペット

カーマット

## SWOT分析

| 強み | 弱み |
|---|---|
| • 自動車内装のトータルコーディネート力<br>• グローバルな生産拠点による品質・供給の安定性<br>• 強靭なグローバルサプライチェーン<br>• 複数事業の技術融合による新素材の開発・提案力<br>• メーカーとしての環境対応力 | • 各海外拠点が持つ技術・ノウハウ集約の不十分さ<br>• 外的要因による価格変動への対応力<br>• 北中米事業の構造改革着手の遅れ |
| **機会** | **脅威** |
| • CASE・NEVなどの自動車産業界の変革期への対応<br>• 環境対応型商材の需要増加<br>• 軽量化・吸音性に優れた繊維系商材の需要増加 | • 中国における日系自動車メーカーの販売低迷<br>• 低価格競争の激化<br>• 海外自動車内装表皮材メーカーの新規市場参入<br>• エネルギーコスト高騰による製造原価の上昇 |

## 事業に関わる会社

住江織物(株)、住江物流(株)、スミノエ テイジン テクノ(株)、帝人テクロス(株)、尾張整染(株)、住江テクノ(株)、Suminoe Textile of America Corporation、Bondtex, Inc.、Suminoe Textile de Mexico, S.A. de C.V.、住江互太(広州)汽車繊維製品有限公司、蘇州住江小出汽車用品有限公司、住江織物商貿(上海)有限公司、T.C.H. Suminoe Co., Ltd.、Suminoe Koide (Thailand) Co., Ltd.、PT. Sinar Suminoe Indonesia、PT. Suminoe Surya Techno、Suminoe Teijin Techno Krishna India Pvt. Ltd.

## SGW SUMINOE GROUP WAY 2022〜2024〜2027 戦略・施策と2023年5月期の進捗評価

| 戦略・施策 | 進捗 | 戦略・施策 | 進捗 |
|---|---|---|---|
| 環境対応型商材の開発・販売促進・活用 | ○ | 新規部位・少工数生産をキーワードとした開発 | ○ |
| 次世代自動車内装の開発 | △ | 新工法によるファブリック素材の開発 | ○ |
| 最適調達による原価低減 | △ | グローバル各拠点の情勢・課題に沿った開発展開 | △ |
| 海外への横展開 | △ | ———— | — |

## 担当役員による振り返りと今後の展望

### 100年に一度の変革期に対応するべく、新プロジェクトを推進していきます。

常務取締役
産業資材事業部門長
丸山 敏朗

### 2023年5月期の振り返り（成果と課題）

2023年5月期は、新型コロナウイルス感染症拡大が起因のサプライチェーンの混乱、半導体の供給不足、各自動車メーカーの工場稼働停止に加え、輸入材料への円安影響、原油高での材料・エネルギーコストの高騰など、非常に厳しい状況が続き、売上・セグメント利益は計画を大きく下回りました。しかし、お取引先様協力のもと、コスト削減、原価低減、品質向上に注力し、原材料価格高騰の影響を最小限に極力抑えることができました。

また、懸案事項の北米子会社の収益性向上については、生産体制の再構築、メキシコの子会社との連携強化により、黒字化の目処が立ちました。

設備投資については、今後成果が期待できる製品開発や提案活動に加え、グローバル生産体制整備のためにタイ・中国・メキシコで、新規技術開発のための機械導入や、合成皮革製造の新工場の準備などを行いました。

自動車業界は、2030年に向けて各自動車メーカーがEV自動車開発を加速させ、ESG・SDGsへの対応など、100年に一度の変革期に入っています。その変化への対応の一つとして、ファブリック開発に関する新プロジェクトを立ち上げました。従来のサステナブル素材、エンボス・刺繍などの意匠アイテムにさらなる価値をプラスした製品をつくるべく、開発・営業・技術メンバーが一体となって取り組んでいます。

### 今後の展望（SGW2024達成に向けて）

SGW3年目を躍進の年と位置づけ、高い製品開発力・生産提案力でお客様の信頼を獲得すべく、4つの重点取り組み事項を推進します。

一つ目は「北中米拠点のさらなる強化」です。メキシコ子会社では、2023年中に合成皮革製造の新工場の完成と開所式を予定しています。当社グループでは数年ぶりの新工場建設です。苦戦していた北中米拠点の起爆剤となりうる製品づくり、新製品、マーケット拡大と新たなステップアップを行います。

二つ目は「ファブリック事業の強化」です。「スミトロン®」を活用したシート表皮「エコニックス」※の採用、加飾材の拡販など、より一層企画・開発・製造を強化し、ファブリックの受注拡大をグローバルに目指します。

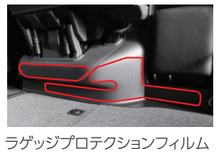
三つ目は「人材の育成」です。マルチに対応できる人材を育成し、さらに実践力を養います。

四つ目は「中長期に向けた具体的戦略」です。国内外計17拠点それぞれの状況・特長に合わせた具体的戦略を立案し、業務目標達成への道筋を見える化します。

※ エコニックス：再生チップを使用した環境対応型の原糸使用ファブリックで、耐久性が高く、防汚性と摩耗白化防止性に優れています。

### 進捗 他事業製品を自動車内装用品として展開 — 新規部位・少工数生産をキーワードとした開発

車両内装事業の製品である電車・バス向けの床表示フィルムを、自動車内の傷防止目的の内装用品として拡販開始。まず、日産自動車(株)のセレナ e-POWER（2023年4月発売）のラゲッジルームのプロテクションフィルムとして採用されました。今後は、インテリアパネル・サイドステップガーニッシュ・ラゲッジエントリーガードなど、他部位への提案を視野に、スクラッチ傷防止・加飾の特性を活かした開発を進め、各自動車メーカーを対象に拡販していきます。


ラゲッジプロテクションフィルム

# 自動車・車両内装事業（車両内装事業）

## 事業内容

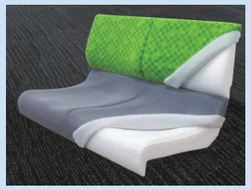
主に鉄道・バス用内装材（シート表皮材、壁装材、カーテン、床材、シートクッション材など）の製造・販売。
鉄道車両ではJR・私鉄・公営交通各社、バスでは送迎用から路線・観光バスまであらゆるお客様に納入。

## 主要製品

モケット、カーテン

カーペット

床表示フィルム


スミキューブ®、ニット

## SWOT分析

| 強み | 弱み |
|---|---|
| • 業界トップのシェア率<br>• 車両内装のトータル提案力<br>• 安全性に優れた環境対応型商材<br>• 自社グループ工場保有による技術力・開発力 | • 生産工場設備の老朽化<br>• 人材の高齢化<br>• 交通業界の落ち込みから受ける影響の大きさ<br>• 海外向け実績の不十分さ |
| **機会** | **脅威** |
| • アフターコロナの旅行者・訪日外国人数の増加<br>• MaaSの実用化による公共交通機関の利用者増加<br>• 環境対応型商材の需要増加<br>• EVバス向けの需要増加 | • 少子高齢化による公共交通機関利用者の減少<br>• テレワーク・時差出勤の定着による出張減少やラッシュ時間緩和による車両保有台数減少<br>• 原材料価格の高騰 |

## 事業に関わる会社

住江織物（株）、丸中装栄（株）、関織物（株）、帝人テクロス（株）、尾張整染（株）、住江テクノ（株）

## SGW SUMINOE GROUP WAY 2022〜2024〜2027 戦略・施策と2023年5月期の進捗評価

| 戦略・施策 | 進捗 |
|---|---|
| 回復が見込まれる改造・張替工事の受注拡大 | × |
| 新規商材の開発・拡販 | ○ |
| 環境にやさしいファブリックの開発 | △ |
| シェアの拡大 | ○ |
| 新触感スミキューブ®（シートクッション材）の提案・受注 | △ |

## 担当役員による振り返りと今後の展望

### アフターコロナの各需要回復を商機と捉え、販路拡大により業績アップを図ります。

執行役員
車両資材事業部門長
瀬戸 貞弘

### 2023年5月期の振り返り（成果と課題）

2023年5月期は、顧客企業である交通事業者様の座席シート更新メンテナンスや観光バスなどの新車発注などが回復せず、受注量が厳しい状況が続き、売上が低迷しました。

しかし、新型コロナウイルス感染症の5類移行後、国内の旅客需要が回復傾向にあることを実感しています。観光バスの新車需要はまだ低いものの、鉄道車両の座席シートの更新メンテナンス用表皮材や、鉄道用車両クッション材「スミキューブ®」の受注が息を吹き返してきたほか、路線バスの需要回復や、新たにEVバス向けの需要などが見られます。

こうした変化を機会とし、「顧客企業の要求にさらに応える時期」と捉え、高い提案力・シェアを十分に活かし、よりご満足いただける提案と、製品の安定供給に取り組んでまいります。

### 今後の展望（SGW2024達成に向けて）

当社は1896年にシート表皮材用のパイル織物であるモケットの国産化に成功して以来、公共交通機関の座席シート表皮材分野においてトップシェアを維持しており、当事業の売上の約5割を占めています。2022年7月には、モケットの生産工場である関織物（株）をグループ会社化し、開発生産体制の維持向上を図りました。今後もお客様の要望を満たす意匠性や機能性を追求し、ブランド価値向上を目指します。

社会全体の旅客需要は、コロナ禍以前の8割程度までしか回復していません。そのようななかでSGWを達成するために、機能性製品のさらなる普及や、「スミキューブ®」・床表示フィルムの高機能化・低価格化に注力し、受注増加を目指します。

現在、他事業との連携強化や、車両内装事業のノウハウ導入により、これまでになかった製品の実績もできてきました。今後も劇場・ホール用の椅子張地の販促活動に取り組むなど、既存ノウハウを活かしつつ販売先の拡大を図り、業績の回復に繋げます。

### 進捗 関織物（株）のグループ化によるシナジー効果創出 — 新規商材の開発・拡販、シェアの拡大

住江織物（株）の安定供給体制と、関織物（株）が持つ日本有数の製織技術力のシナジー効果に期待して、2022年7月、当社グループに関織物（株）を迎えました（P30）。関織物（株）は、鉄道・バスのみならず家具用モケットでも高い販売力を有しており、グループのシェア拡大と競争力強化に寄与しています。

また、住江織物（株）の車両内装資材事業部車両企画部長を、関織物（株）の取締役に任命しました。グループ全体で、今まで社外役員の女性登用はあったものの、社内からの内部昇進としては初の女性取締役です。車両内装事業に携わる前はインテリア事業で一般家庭向け商材を取り扱っており、そこで培った生産管理・品質管理などの経験を活かしながら、車両内装事業および関織物（株）の運営・管理を担っています。今後も他事業で培った経験・知識・人脈を、車両内装事業全体の新規商材の開発・拡販に活かしていきます。

# 機能資材事業

## 事業内容

繊維、非繊維、内装材から家電用品、食品まで、従来の事業領域にとどまらない新たな事業分野への展開を積極的に推進。
家電事業：繊維系暖房商材、機能材事業：浴室床材、消臭商材、航空機内装材、遮水・遮熱シート、食品商材の開発・製造・販売。

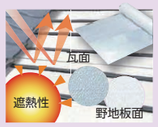
## 主要製品

ホットカーペット

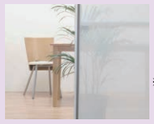
空気清浄機用消臭フィルター

Tispa®シリーズ
「香りでごまかさない 本当の消臭」

柿渋（柿ポリフェノール含有）
サプリメント「柿ダノミ」



ルーフィング材


クロスキャビン®

※クロスキャビンは帝人フロンティア株式会社の登録商標です。

浴室床材

航空機内装材

## SWOT分析

| 強み | 弱み |
|---|---|
| • 独自性のある機能材・機能加工技術<br>• 環境対応技術力<br>• 高品質製品・高レベルな開発を実現する組織体制 | • OEM事業による需要変動への脆弱な耐性<br>• 繊維系に限られた家電商材<br>• ブランディング浸透の遅れ<br>• 多分野対応による推進力の分散 |
| **機会** | **脅威** |
| • 脱炭素社会、少子高齢化、健康・衛生志向の高まり、DX変革などの外部環境変化による新たなニーズの発現<br>• 多分野にわたる現顧客層の新たな需要<br>• 海外事業所を足場とした海外需要の発掘 | • パンデミックなどの予期せぬ外部環境の変化<br>• 市場成熟化、商品低価格化、価格競争激化<br>• 少子高齢化などによる消費動向の変容<br>• 海外事業所所在地域の国状変化 |

## 事業に関わる会社

住江織物（株）、住江テクノ（株）、Suminoe Textile Vietnam Co., Ltd.、蘇州住江織物有限公司、尾張整染（株）

## SGW SUMINOE GROUP WAY 2022～2024～2027 戦略・施策と2023年5月期の進捗評価

| 戦略・施策 | 進捗 | 戦略・施策 | 進捗 |
|---|---|---|---|
| 繊維系暖房商材の海外事業所再編と供給体制の最適化、事業力強化 | △ | 柿渋などの機能天然材を活用した新たな健康食品や日用品の開発と拡販 | △ |
| 機能材、加工技術の活用による新たな商材開発と拡販 | △ | スマートテキスタイルを活用した新たな事業化推進 | △ |
| 消臭加工や抗ウイルス加工など機能加工による新たな商材開発と拡販 | △ | 技術開発部門との連携と営業開発力の強化 | △ |
| 航空機QMS JIS Q 9100による航空機内装材の適切な品質管理と製品供給体制の維持推進 | ○ | ―――― | ― |

## 担当役員による振り返りと今後の展望

### 大きな環境変化に柔軟に対応しながら事業規模拡大や収益向上に努めます。

執行役員
機能資材事業部門長
福岡 正也

### 2023年5月期の振り返り（成果と課題）

2023年5月期は、資源・原材料価格の高騰、急激な為替変動、円安による輸入コストの増加などの影響を受けたものの、浴室床材などの堅調な需要が寄与し、業績は2022年5月期を上回りました。

家電事業は、海外事業所再編後、新体制での初年度でした。2023年5月期から繊維系暖房商材の生産を担ったベトナム工場では、主要部材の内製化準備が順調に進み、SGW2024に向けた生産体制が整いました。今後、ベトナム工場では営業ライセンス拡張を行うとともに、日本・中国拠点との連携をより強化し、生産事業のみならずプラスアルファの新事業にも取り組むことで、収益向上に努めます。

機能材事業の機能性資材分野では、堅調な需要が継続している浴室床材の生産・在庫・納品の運用管理改善を進め、供給体制の強化を進めています。

機能加工分野では、空気清浄機向け消臭フィルターの需要が低調であったものの、SGW2024に向けて新規需要の獲得や、開発を進めています。

いずれの分野でも、環境変化に耐えうるコスト競争力や新領域への開発推進力に課題を残しつつも、SGW2024に向け、前述の各取り組みを強化していきます。

### 今後の展望（SGW2024達成に向けて）

行動制限の緩和やインバウンド需要の回復など、正常化の動きはあるものの、ロシア・ウクライナ情勢の長期化、欧米を中心とした金融引き締め、資源・原材料価格の高騰、為替の変動など、先行きの不透明感は拭えません。また、ライフスタイルの変化による価値観の多様化や、サステナビリティへの関心の高まりが一層進むと思われます。

当事業もその潮流下にあるものの、SGWで掲げた戦略・施策を強化・推進し、環境変化に即して事業を拡大すべく、右記6点に注力していきます。

① 事業・業務の最適化や効率改善によりコスト競争力を向上させ、利益最大化を目指す
② 社会課題や市場ニーズに即した製品開発を推進
③ 多様な顧客層に向け、提案型の開発営業を強化
④ 独自素材・加工技術を応用した用途開発や異分野への活用開拓
⑤ 海外事業所の機能を高めて生産事業プラスアルファを推進
⑥ 技術開発部門との連携を進め次世代に向けた新領域への開発活動を推進

### 進捗 ベトナム拠点の機能最適化 ― 繊維系暖房商材の海外事業所再編と供給体制の最適化、事業力強化

繊維系暖房商材の生産拠点であるSuminoe Textile Vietnam Co., Ltd.では、消臭フィルターの加工組立を開始しました。これにより、消臭フィルターの主要顧客との物理的距離が縮まり、顧客対応の最適化が見込まれます。

2024年5月期からは、電気カーペットの主要部材である不織布の内製化をスタートさせ、業務の効率化と収益拡大を推進していきます。

Suminoe Textile Vietnam Co., Ltd.の
不織布製造ライン

## インテリア事業

### 廃棄されるタイルカーペットを新品に再生。資源を未来へ繋ぐ「ECOS®」

切迫した環境課題である埋立処分場の残余年数は、全国でわずか20年余りといわれています。当社グループは2011年に、これまで埋立廃棄処分しかできなかった使用済みタイルカーペットを新しいタイルカーペットの裏材へと再生する「ECOS®（エコス） Recycle System」を構築し、世界でもトップレベルの再生材比率となる水平循環型リサイクルタイルカーペット「ECOS®」を発売しました。また、裏材のみならず、当社グループが自社開発した再生ポリエステル繊維「スミトロン®」（1989年開発）や廃棄漁網再生繊維「SEACLE（シークル）」（2021年開発）を、「ECOS®」表面のパイル糸として使用したダブルリサイクル製品も発売しています。2020年からは、タイルカーペット全製品のパイル糸を原液着色糸へ切り替えて、環境負荷の多くを占める染色工程を廃止し、当社グループ工場での水使用量・電気使用量・排水の削減を実現しました。

昨今、環境に配慮した製品が多く存在するなかで、業界に先駆けて取り組んでいた「ECOS®」の理念が大手デベロッパーにも高くご評価いただき、直近では首都圏の大規模プロジェクトである森ビルの麻布台ヒルズ・虎ノ門ヒルズステーションタワープロジェクトの各階オフィスに、「ECOS®」を計約35万㎡採用いただきました。今後も持続可能な未来を目指して「ECOS®」の理念に賛同いただけるよう、お客様とともに取り組んでいきます。

水平循環型リサイクルタイルカーペット「ECOS®」

## 自動車・車両内装事業（自動車内装事業）

### 新工法によるファブリック素材の開発・受注を推進

ファブリック事業において、シートのアクセントとなる加飾材として「点吊刺繍織物」が本田技研工業（株）の「ZR-V」（2023年4月発売）のシート表皮材に採用されました。このシート表皮材は、奥行き、立体感のあるカラーミックスファブリックとソファーのような豊かな沈み込みをつくり、また心地よい柔らかさを感じる表皮を目指し、開発を進めました。ソファーのような立体感表現のために新たな刺繍加飾表現を用いています。元々刺繍の技術はマット事業に携わりミシンを扱う拠点で使用しており、染色や仕上げ加工技術に強みを持つファブリック事業ではあまり使用していませんでした。今回、それぞれの事業を行う海外拠点で技術交流・継承を図ることで、自動車内装のトータルコーディネート力とマット事業・ファブリック事業などの技術融合に繋がり、「ZR-V」の開発コンセプトを具現化することができました。

シートファブリックの加飾事業強化は今後の重要戦略の一つであり、質感の高い上質な室内空間提供に向けて推進していきます。

**新規刺繍加工技術**

| | |
|---|---|
| **効果** | ● 凹凸や立体感のある刺繍表現<br>● ステッチ調、面表現、ドット調、糸のジグザグが重なった表情など様々な表現 |
| **特長** | ● 厚地への刺繍加工が可能で、組み立てが容易<br>● 9色の刺繍糸の色替えが可能<br>● 異形断面刺繍糸を集合体として使い、光沢感＋立体感を見せる |

「ZR-V」内装

## 自動車・車両内装事業（車両内装事業）

### 住江織物（株）の市場規模と関織物（株）の既存技術によるシナジー効果の発揮

住江織物（株）の車両内装事業は、100年を超える実績と信頼のもと、マーケットリーダーとして事業を推進しています。今後、従業員の高齢化や、アフターコロナや少子高齢化による公共交通機関利用者の減少および車両保有台数減少などが事業環境に影響を与えることが想定されるなか、2022年7月、鉄道・バス向けのシート表皮材に使用されるジャガードモケットの生産・販売を行う関織物（株）をグループ会社化しました。

関織物（株）の特長として、製織から仕上げ加工までワンストップで生産できる、製造力が挙げられます。その関織物（株）がグループインすることで、住江織物（株）がマーケットリーダーであることによるスケールメリットを活かしてさらなる生産効率化を目指すことができ、また、原材料調達価格の低減が可能になるなど、コスト面での効果も見込んでいます。そして、住江織物（株）の開発力と関織物（株）の製造力を掛け合わせることで、今後さらに新規事業・技術の開発および市場の拡大を進めていきます。加えて、車両内装事業におけるマザー工場を再構築し、関織物（株）の織機の維持や技術継承に積極的に取り組むとともに、車両内装事業に携わる従業員のモノづくりへの意識をより高めていきます。

住江織物（株）、関織物（株）、丸中装栄（株）のSUMINOE GROUP車両内装事業一体となってシナジー効果を発揮し、新たな展開を進めていきます。

関織物（株）第1工場

## 機能資材事業

### クリヤマプリージア（株）の環境配慮型レンタルマット生地の新規販売

クリヤマプリージア（株）はマット、モップ、芳香剤などレンタル商材の企画・製造・販売を行っており、環境保護を目指した製品や衛生面、安全面にも配慮した製品展開に積極的に取り組まれています。これまで、当社グループ機能資材事業の独自性のある機能材・機能加工技術、環境対応技術を評価いただき、再生ポリエステル繊維「スミトロン®」にSEK認証取得※の制菌性能を付与した制菌マット生地やトイレマット生地、モップ糸などを採用いただいています。この度、2023年5月に発売開始となった「Re.EarthMat（リ・アースマット）」に当社グループのマット用生地が採用されました。「Re.Earth」には「元の美しい地球に!」との思いが込められ、漁網やカーペット、テキスタイル産業からの廃棄物を再生してつくられたイタリアAquafil社の「ECONYL®」ナイロンがパイル部に使用されています。赤色を効果的に配し、いくつかの織組織を組み合わせた市松柄風デザインは、従来のレンタルマットにない意匠性を有し、クリヤマプリージア（株）と住江織物（株）デザイン担当、住江テクノ（株）設計担当が共同して開発、製品化に至りました。

機能資材事業は、高品質製品・高レベルな開発を実現する組織体制を活かしながら、環境面や機能性、安全性など、差別化できる製品の開発提案を続け、お客様のニーズに応えていけるよう活動していきます。

※（一社）繊維評価技術協議会の認証制度（業界自主基準）

「Re.EarthMat」

## 開発の基本理念

健康 環境 リサイクル アメニティ
**KKR+A**

「K（健康）K（環境）R（リサイクル）+A（アメニティ：快適さ）」を開発の基本理念として、環境問題の解決と社会に貢献する技術・製品の研究開発や、産学連携のシーズ開発などに取り組んでいます。これからも、「KKR+A」と長年培ってきたコア技術をベースに、人と環境にやさしい新たな技術・製品の開発を目指します。

## コア技術

- 織・編製造技術
- コーティング技術
- 再生ポリエステル製糸技術
- ラミネート技術
- 機能付与技術
- 硬綿加工技術

## 研究開発体制

**技術・生産本部**

| 技術開発センター（研究開発） | 住江テクノ（株）（技術開発） |
|---|---|

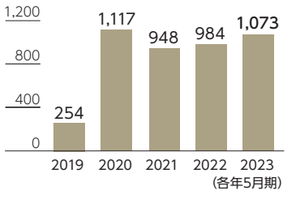
×

**各事業の開発チーム**

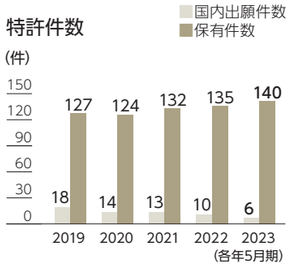
| インテリア事業 | 自動車内装事業 |
|---|---|
| 車両内装事業 | 機能資材事業 |

奈良事業所を拠点に、コア技術を研究・技術開発する「技術・生産本部」と各事業の「開発チーム」が連携して研究・技術開発を行っています。

**研究開発費**




**特許件数**




## Topics

### 用途に応じた制振性能を実現する、樹脂配合技術を確立

自動車オーディオ用デッドニング材などに採用される「軽量・発泡制振シート」には制振性を持つ樹脂を使用しています。従来は1種類の樹脂を用いていましたが、2023年5月、制振特性が異なる複数の樹脂を、各特性を残したまま配合できる技術を確立。これにより、振動源の温度帯や周波数帯などに応じた柔軟な調整が可能になり、使用環境により適した設計ができるようになりました。現在は、この技術を活かして開発した「ブルピタ™」などの新商材の展開に取り組んでいます。

## SGW SUMINOE GROUP WAY 2022〜2024〜2027 研究開発課題と2023年5月期の進捗評価

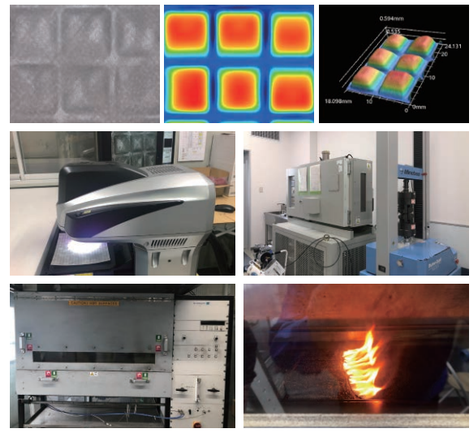
| 戦略 | 進捗 | 戦略 | 進捗 |
|---|---|---|---|
| 浴室内装商品の高機能化 | ○ | バイオプラスチック活用の基礎研究 | △ |
| 床表示フィルムの改良 | ○ | 木質バイオマスからの有益物質抽出の基礎研究 | × |
| 複合機能加工薬剤の研究開発・商品化 | △ | スマートテキスタイル：水濡れ検知システムや発電繊維の商品化に向けた取り組み | ○ |
| 抗菌・抗ウイルス機能の技術開発と評価技術の構築 | ○ | | |
| 天然物を利用した新規商品開発 | △ | ———— | — |

### 樹脂加工技術のレベルアップを推進

当社グループの強みの一つに、カーペットのバッキング（裏材）加工で培った樹脂加工技術が挙げられます。

特に、安全性・環境性が高いオレフィン樹脂に造詣が深く、これを用いているのが床表示フィルムや浴室内装製品などです。これらの製品にはさらなる高性能・高機能化が求められています。それに応えられるような樹脂を開発すべく、多様な評価装置を活用しながら、防滑性・防汚性・高賦形性・難燃性・高強度化・耐熱性など、あらゆる性能のバージョンアップを推進しています。

樹脂加工技術や、繊維の「織り」や「編み」の技術などを高度化していくことで、様々な材質の内装材で、斬新な意匠と快適な機能性を実現していきます。



立体形状、高強度・耐熱性、難燃性の評価測定装置（例）

## 研究・技術開発担当役員が語る研究・技術開発戦略

### イノベーションによる社会課題の解決、既存事業の成長と新たな価値創出を目指します。

取締役
技術・生産本部長
木村 栄一郎

研究・技術開発部門である技術・生産本部では、コア技術・コア設備の強みを活用し、新製品の開発・既存事業の成長に取り組んでいます。

2023年5月期には、自動車用カーペットのバッキング樹脂に関する設計・配合技術と、押出加工機の成型技術を融合させることで、樹脂の制振機能のカスタマイズ技術を実現しました。これを用いた新製品が制振シート「ブルピタ™」です。この技術により、当社グループが提供できる樹脂製品の幅が大きく広がりました。今後、新たな市場・産業分野への参入を目指しています。

また、当社グループが得意とする繊維加工技術においては、ナノ素材の積極的な活用や、独創的な加工技術の研究・開発を通じ、ポスト「トリプルフレッシュ®」（消臭加工技術）の創出に取り組んでいます。

奈良事業所の再編プロジェクト完了から1年余りが経過しました。「豊かな環境を創出する拠点」になるべく、廃棄物削減や再生可能エネルギーの導入などを引き続き推進することで、着実に前進していきます。

# 自動車業界の大変革に対応し、体制の最適化・技術力の向上へ

自動車業界はCASE※1、MaaS※2といったキーワードに象徴されるように、100年に一度の大変革期を迎えています。これは当社グループにとっては大きな事業機会であり、多様な変化に応えていくため、様々な取り組みをしています。今回はそのなかから、合皮・加飾事業の取り組みを、海外グループ会社の社員が紹介します。

※1 Connected（コネクティッド）、Autonomous（自動化）、Shared & Service（シェアリング&サービス）、Electric（電動化）の頭文字で、次世代の自動車産業の動向を示すキーワード。
※2 Mobility as a Serviceの略で、複数の交通手段を一つのサービスとして統合した、次世代の交通サービス。

## 合皮事業

### 合成皮革市場の拡大を事業機会と捉え、生産体制の最適化を図ります。

メキシコ　グアナファト州
Suminoe Textile de Mexico, S.A. de C.V.
COO
**青山 雅一**

環境配慮の観点から、自動車の電動化の流れが加速しています。電気自動車においてもガソリン車の燃費と同様に、電費の向上が求められています。様々な部品で軽量化が求められるなか自動車用シートも例外ではなく、最近では本革よりも軽い合成皮革が選ばれる気運が高まっています。それらに加え、動物愛護の観点からも合成皮革の需要が増加してきたことなども影響し、北米の合成皮革市場は2022年時点で約1,400億円規模にまで拡大しました。

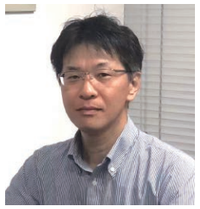
この市場拡大に対応するため、当社グループでは北中米拠点の事業の再構築を進めており、2023年12月には合成皮革製造ラインを有した新工場がメキシコに完成予定です。自動車用シートの組立工場がメキシコに集中しているため、当社グループが現地に製造拠点を持つことで、メキシコさらには北米のシート向け裁断・縫製メーカーへの供給が従来以上に効率化できる見込みです。新工場は今後の合成皮革需要の多様化に備え、PUとPVCを取り扱えるようにしており、技術・製造環境の整備や人材育成など、付加価値のある合成皮革供給の準備はほぼ完了しています。

現在、米中貿易摩擦による中国からの輸入コストの上昇や、米国・メキシコ・カナダ間の貿易協定（USMCA）による北米原産品調達化の必要性から、メキシコの自動車部品も北米向けの輸出が大きく増加しています。生産量も堅調に伸び続けており、今後さらにこの流れが強まっていく見込みです。当社グループではこれまで、日本や中国からメキシコへ合成皮革を輸出し対応してきましたが、こうした流れに対応して、今後はメキシコの新工場から供給することになります。海外自動車メーカー各社からも様々な引き合いをいただいており、生産体制の最適化を図ることで、グローバルサプライチェーンの強化を目指します。

メキシコ新工場完成予想図

## 加飾事業

### 高い技術力で素材に付加価値をつけ、市場ニーズに対応していきます。



中国　上海
住江織物商貿（上海）有限公司
董事長兼総経理
**紺田 誠**

自動車の自動運転化が今後さらに進むと、車室内は単なる移動空間ではなく、プライベートスペースとしてのニーズが高まっていくことから、新たな意匠表現の市場拡大が見込まれています。これまで提供してきた自動車内装材に対して、当社グループが得意とする「天井から足元までの車室内空間トータルコーディネート」を、快適性・デザイン性といったさらなる付加価値のついた状態で提供するためにも、加飾技術の重要性が高まっています。

自動車内装用シートファブリックの加飾といえば、これまではプリント加工やエンボス加工など、模様を施すものが主流でしたが、昨今ではトレンドが変わりつつあります。無地の「素材感」が重視されており、そこに刺繍・穴あけ（デザインパーフォレーション）などプラスアルファの加飾技術を施したもののニーズが高まっています。当社グループ製品でも刺繍加飾が施された織物が本田技研工業（株）の「ZR-V」（日本・中国）と「HR-V」（中国）に採用されました。この製品を生産するために、中国の２拠点に日本製の刺繍設備を導入し、自社管理のもと、原材料調達・製造・販売を行っています。さらに、新意匠表現の幅を広げる手法として刺繍+パーフォレーションといった複数の技術を組み合わせる「加飾コンビネーション」の検討も進めています。

今後も引き続き、基幹商材のファブリックに加え、当社グループがさらに注力する合成皮革などの各シート材に対し、デザイン開発力や調達力、加飾加工を可能とする生産力を駆使して高付加価値をつけていくことで、他社商材との差別化・拡販を目指していきます。特に世界最大の自動車生産台数を誇る中国マーケットにおいては、日系自動車メーカーのみならず、多方面へのアプローチを進めていきたいと考えています。

中国で使用する日本製刺繍機